

技術・家庭科部門

総評

今回の応募作品は、昨年に比べてレベルの高いものが多かったようです。特に上位に入賞した作品は、どれもが時間や労力がかけてあり、独創性があり、また実証や資料が作品の中うまく取り入れられていました。

その反面、努力はしているけれども、単に調べただけのものや、本などに紹介されているも

のをそのまま作っただけというような、実践の裏付けや独創性がないために入賞できなかった作品も目立ちました。

研究を始める時に心がけることは、あまり欲張らずに研究の範囲をしぼり、その目的をはっきりさせることです。製作中に苦労したことなどをメモしておくことも大切です。

最優秀賞受賞作品

カレーライス探検隊

東京都私立聖徳学園小学校

三年 野瀬 朗満

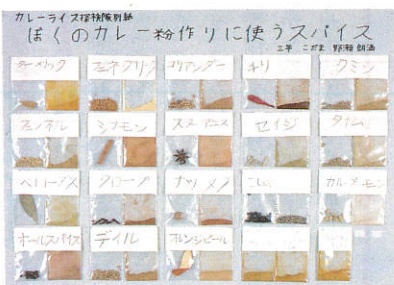
●はじめに ぼくがこの研究をした理由は三つあります。一つは料理に興味があり、好きだからです。だからお料理教室に行っています。そこではサモサやドライカレーは作ったけれど、スパイスを入れたカレーは作りませんでした。なので一度インドの人が食べているようなカレーを作ってみたいと思いました。

二つめは、いんしょうにのこっている料理だからです。ぼくがはじめて、料理らしい料理を作ったものがスパイスを入れたカレーで、その時は一年生の秋でまだ小さい時だったから、いんしょうに残っています。

三つめは魅力のある料理だからです。カレーは

たいていの人が好きです。ぼくも大好きです。たとえば林間学校の野外炊飯の時カレーきらいだったべないという人はいませんでした。

この三つの理由がかさなってカレーの研究をすることにしました。



▶実証と資料がうまく合わされている作品で非常に独創性がある。また「カレーンダー」などゴモラスで楽しい。

ONE POINT アドバイス



この作品は、細かいところまでいいねいに仕上げてあり、小山さんの努力が感じられます。でも、製作過程を書いたレポートが付けてありませんでしたので、

せつかく布を自分できれいに織つても、審査をする場合「本当に自分で織つたのか？」という疑問が残ります。

レポートを書く場合のポイントとは、作品を作った動機や目的を入れるのはもちろんですが、先生や家族に教えてもらったこと、自分で苦心したことなども書いておくとういでしょう。また、作品と関係のある資料なども（この場合は機械り機など）整理して入れておく作品に幅ができて、すばらしい研究になると思います。

